

## 新規実施項目のお知らせ

拝啓 平素は格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。  
 このたび、下記検査項目を新たに受託開始いたしますので、  
 ご利用いただきたくご案内いたします。

敬具

### 記

〈実施日〉

平成 28 年 3 月 1 日 (火) ご依頼分より

コード	新規検査項目 IgE(RAST)	検体量	日数	検査方法	基準値	実施料
1512	Gly m4 (大豆由来)	血清	2~4	FEIA	陰性	110
		0.3			0.34 以下	
					(UA/ml)	免疫
1513	Hev b 6.02 (ラテックス由来)	血清	3~5	FEIA	陰性	110
		0.3			0.34 以下	
					(UA/ml)	免疫

外注先 京浜予研

## 《臨床的意義》

### ● Gly m4

「Gly m4」は、大豆由来のアレルゲンコンポーネントの一つであり、大豆のクラス2食物アレルギーの原因物質であることが報告されています。

大豆を原因とするアレルギーには、即時型食物アレルギーとクラス2食物アレルギー（感作アレルゲンと症状発現の原因アレルゲンが異なる病態）が知られています。クラス2食物アレルゲンはハンノキやシラカンバ等のカバノキ科花粉に対してIgEを産生し、その後、大豆加工品（豆乳や水分を含む豆腐など）を摂取することで症状が誘発されます。

「Gly m4」は、「大豆」と比較して、大豆のクラス2食物アレルギーに対する臨床的感度が優れていることから、診断補助に有用であると考えられています。

しかし、「Gly m4」以外の大豆アレルゲンコンポーネントが原因と考えられるアレルギー症例も報告されているため、「Gly m4」に加えて「大豆」も一緒に測定されることをお勧めいたします。

### ● Hev b 6.02

「Hev b 6.02」はラテックスアレルゲンコンポーネントの一つであり、ラテックスアレルギーの主要アレルゲンとして知られています。臨床的特異度が「ラテックス」と比較して優れていることから診断補助に有用であると考えられます。しかし、臨床的感度は「ラテックス」のほうが優れているため、「Hev b 6.02」と「ラテックス」を合わせて測定することで、より精度の高い診断が可能になることが期待されます。

### ● 参考文献

原田 晋、他：日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会雑誌1(1):31-38、2007.

足立 厚子、他：日皮アレルギー、14:64-72.2006.

A.yagami,et,al.:AllergologyInternational 58 (3):347-355, 2009.